京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十一年創刊
本紙定價 一枚金二錢 一ヶ月前金三十錢 三ヶ月前金八十錢 六ヶ月前金一圓六十錢 一ヶ年前金三圓
廣告料 五號活字十七字詰一行一回金五十錢 別號活字 ……
月曜日及び大祭日の翌日は休刊
發行編輯人 高木久太郎
印刷人 松久一郎
發行所 京城新報社 京城西小門通
仁川支局 仁川宮町三丁目
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町

●通明殿の名畫を見る（下）

野崎小蟹

李楨號を瀨齋と呼ふ人の山水は、小物であつたやうに記臆せらるゝが實に狸邦のやうな手腕に見れた、三百七年以前の作物らしい。

小物に好いものを見止めたのである勿論名畫の保存掛だから見止めるゝ見止めないもない次第であるが、あの金植の畫だつた賦は文晁のやうにされ感想が浮べられた。

李嵩恩湖の花鳥もよかつたのである、申命衍の目醒むるばかりの華鳥は水彩畫の如しと云つて賞めていゝ品である、昔しも恁うした清新な筆を振つた作者があつたかと思うと、何となく故人に逢いたくなつて〳〵、叶はぬ事ながら懷はしくなる、華山の如き人だ李士浩の山水、申世霖の竹と鳥、成允瓏の馬に仙人、皆俗脱してる名品に見れた。

申潤福號を蕙園と云ふ作者のは人物が活きてるのに感服して了つた、矢張り小品であるけれども、彈琴の美人が實に語り出しさうに書かれてある、比較的朝鮮畫には人物の妙手は見止められぬ方であると思ふて居たが、蕙園の此畫には私は雙手を擧げて巧みを賞讃する、他にも此作者の繪がある皆人物の顏がよう書かれてある、歌麿と取組ませたい名人である。

其他に南里金斗梁、及び石敬や金厚臣號を彝齋と呼ぶ人のも、私の氣に入りの品であつた、崔北號を七々と云ふ人の手腕の凡ならぬ作物に接した此山水畫は實に淵畫の細かい所はなく狩野流のあつさりした邊も交つて面白い見に價のあるものである。

如上ざつと記して見た、思ふに名畫に於ては泰西の繪と雖も接近して見るものらしい、書き殘された作物を互に比較るならば、何んだなく趣向なるものと、畫風なるものとに似通ふものゝ如くなつて、夫婦のやうに畫に感じを有して來るものである、彼名は忘れたが米國あたりの好事家某が、極めて日本畫家通であつた、日本の觀定家は三舍を避る位な力量があつたらしい、其人の云つた事に名譽となると、東西の差別はない文晁の遠山が、さも油畫に似たのを見たと、恁うものゝ本にあつた、私も其文晁の繪を見た事があつたので、成程名畫はかゝるもの歟と膝に銘じて退いた。

今茲に朝鮮の通明殿に名畫を見て趙國の一大の名家と筆を同うする、墨繪と云ふものが、否此名畫が私の眼を肥やして呉れたのを謝さねばならぬ、私は文を讀む事と作る事との外に、名人の書かれた畫を見る事を、最大の樂みとして居るものである、京城に來ていゝ作物を觀て嬉しく思ふ、そして友に今日の勞を謝さねばならぬ（九月廿三日稿）

雜録

●濟州島近況

濟州島民

濟州島は一般に敢て富裕なりと云ふにあらざるも他の内陸に比しては概して究迫の民尠く糊口に窮し路頭に迷ふ等の者なく日常の生活に付ては先づ差支なきもの〻如し生業は農業及漁業其大部を占め其他の雜業に至りては最も稀少なり島民は多く遊惰にして飲酒賭博の惡習到る處に流行し又微細の點に就ても直ちに訴訟を提起するの弊風あるを以て警察は專ら之等惡風の矯正に努め居れるが如し然るに女子は到る處頗る勤勉にして特に多數の海女が鷗鵜の如く海中に浮沈游泳し漁撈に從事し居るは他に其類例を見ざる處なるべし

▲農作物 の主なるものは粟にして甘薯及綿等之に次ぐ孰れも豐作なり漁業に至りては目下鰯の盛漁期にして殊に本年は二十年來未曾有の豐漁なるにより漁民は其多幸なるを祝福し居れり

▲交通機關 に就ては内地と同島間唯一の船運に依るの外なきも良好の港灣なく且つ近海は波浪高く航海頗る困難なるを以て木浦及釜山よりの定期船來るも上陸するを得ずして其儘引返す等珍しからず又島内に於る道路は非常に險惡にして交通不便なり

●露の領海擴張と抗議

露都

露國政府が十二海里領海擴張の件を我外務省に聲明したるを以て外務省にては目下之が事態に就き調査中なるが露國政府は明年一月九日より實施すべき旨官報を以て發表したるに拘はらず我當局者は今日迄未だ何等の施設を爲さゞるは餘りに悠長に過ぎ來年の漁期に影響あるを以て之が抗議を爲すべき事の陳情書を當業者は外務省に提出したり

●濟生會事業計畫

恩賜財團濟生會の寄附額は豫定の二千五百万圓に達したるを以て愈々之が事業に着手すべく準備中なるが其第一着手として東京市に模範施療院を設くる筈にて既に設計調査に着手し之が敷地に就き審議の結果芝赤羽橋の舊海軍工廠跡に設置するに決し病室は凡百坪位のもの數棟を新築すべく取敢ず寄附金中より之が建築費を支出すべしと云ふ

新講談掲載豫告

引續き永々御愛讀の榮を賜はりし本紙所載の小說『召使れ初』も愈々近日大團圓を告げ申候に就ては之れに代る讀物何彼と詮議の結果東都講談界の巨匠小金井蘆洲の口演に係る俠豪

『梁川庄八正國』

の傳を掲載することに致し候同人の豪勇俠氣は眼中王侯貴人なく義に因つては孝子節婦の爲めに氣を吐くこと千丈長夜燈下の讀物として二なきものと存じ候へば相變らず御愛讀下さる可願上候

新講談掲載豫告

●北滿 新大豆の出廻

今より十日前に於て西錦州産の大豆營口の市場に現はれたるを嚆矢第一とし其後五六日前より奉天及び四平街の兩市場へ新豆出廻り始めたり大連にもポツポツ見本到着しつゝあり例年大連市場の新豆初取引は九月二十七八日頃なるも本年は來月上旬なるべしと豫測さる例年營口へ向け出廻り速き西錦州物大豆の出廻りは昌圖及び四平街の走りとして初手合を爲す例なり而して散遲きは長春にして例年十一月上旬ならでは取引開始せられずといふ

外事一束

△獨佛 交渉進捗し獨外相佛大使の會談は先摩國問題解決して後公果領地割讓に入るべく協議は何等困難を生ぜざるべしと樺組の効何れが多き

△西班牙の 革命的色彩を帶びたる大同盟罷業は全然失敗したりと覺すべし

△同盟 罷業聯合委員會は議會が提議を等閑にするを慨し罷業宣言す

△加奈陀總 選擧は保守黨大多數英帝國主議の勝利也之加奈陀が合衆國と通合するの觀 念薄したり加國首相桂冠せんタフト失望し小麥相場騰貴せりと言會

△棉紡 化を中心に起工し經費三千萬圓の内一千万圓を瀕織より借入れんと

西洋奇話

●南瓜の當物で裁縫器械

た神さん連の歡心を迎へて置かねば繁昌の基礎危しと、競爭激しい世の中だけに八百屋氏と雖も默つて居られず、かにかくと思案した揚句、一顆の大南瓜と三臺のミシン器械を店窓の中央に飾り立て、右の大南瓜の中に幾何の種子が在るかを當てた御婦人三名にミシン器械一臺宛呈上する事にして引札を配布したのであつたが、婦連の喜び一方ならず、毎日南瓜が見たさに買物に來て呉れた爲め引いた利益も豫想以上であつた、但當選者の氏名は賣出し最終日に公衆の面前で南瓜を胴切りにして決定



召使れ初

默法師

第百五十三回

『この御消息、眞に此の御消息、何と知れぬ胸騒ぎ、萬一の事あつてはなるまじ、仲間衆にれ頼みしてと、恐る〳〵申し上げた時、れ前で無うては協はぬ事と、同時になう鋭い聲に仰せなされた、うの後の御氣色、生別れでもするやうにれ云ひなされた御口上、思へば〳〵氣に掛る、もし此れ文、御兩親樣御兵衛殿その他の方々へれ暇乞ひのれ遺書ではあるまいか、之、もしやそのれ覺悟ではあるまいか、さうして私を出し拔いて、後で御自害遊ばさう……』と云ひかけて慄として『こりや斯うしては在られぬ、後で如何やうのれ咎め受けても、このれ使ひには行かれぬ、假へ命を召されても、行かれぬ〳〵、どうあつても行くこと能きぬ』

れ察は斯く獨語で、再びれ廊下れ杉戸の外まで驅け戻りしが、主命に背く恐しさに考へ至りて、矢の如く早かりし歩自然と緩くなり、ぐにやりと動かなく立ち止まる。

『いや〳〵、れ心を籠めさせたれ手紙此のまゝ持ちて歸らんは、御旋を反古にするやうで心が濟まぬ、殊に今く〳〵仰せ聞けさせたれ詞、耳底に殘りてあるを、阿容々々中途より取て歸らば、どれほどのれ腹立、どれほどのれ叱りかも知れぬ、いつぞ一走りに海老屋樣へ驅け行き、うの歩ですぐ歸らうか、否う斯うする中、取返し付かぬ一大事あらば什麼とせう、常から御渕潑、れ生れ付き、よもや〳〵御兩親樣へ御不孝、大恩あらせる御前樣へ不忠の仕方、左樣なことあらせられる筈あるまいと推察すれど、氣に掛るは此のれ手紙、父箱開いて拜見せうか、旦那樣れ手紙、下司の身が手を掛けるは恐れ、行きもならず歸りもならぬ、この胸騒ぎ、この足の重さ、尋常事とは思はれぬ、れ叱り受くればうれまでぢや、旦那樣れ免しなされませ、仰せに背くではござりませぬ、横着を致すではござりませぬ、れ身を思ふ一心、このれ使ひには立ちませぬ』

思ひ極めて遽散に驅け戻る、花は早や散り、玉は早や碎けて、れ察の忠義は遲かりき、れ道は白綸子の小袖に、同じ襠衣、白綾の細帶に兩膝を緊乎と綁りて、文臺の上に先祖代々の位牌、その前の香爐に白檀、られに降りて奥方へ上る奉書、下の香卓にれ察への書置、部屋の中清く塵も殘さず掃き清めて、心靜かに乳の下を貫き白紙に卷きたる匕首を右の手に握りたるまゝ俯伏になりて倒れ死したるさま、天晴れ女の龜鑑なりき

『そ、旦那樣——』

れ察はこの樣を見ると共に、狂氣の如く縋り着きて

『旦那樣々々、このれ姿は何事でござります、斯程のれ覺悟あらせられたを何故私へ御秘し遊ばしたのでござります、旦那樣れ供では冥途の果までれ付き添ひ申すものを、れ情無いれ姿、斯は色申すを御推量も給はらで、れ實家方へのれ消息、うなたに限る使などまざ〳〵しう仰せられたれ心が恨みまする、御養生は協ひませぬか、旦那樣々々、れ召使の察でござります、一言仰せられ下さりませ、一言物を仰せられ下さりませ』

呼と死骸に取り縋りて、身を顫はせてさめ〳〵と泣き入る時、はと〳〵聞ゆる草履の音、此の部屋の前に立ち止りて

『れ道さま、れ在かの』

聲掛くるは若江なり



京城新報

割增附農工貯蓄債券を發行せよ

本年上半季に於ける朝鮮貿易額は、輸移入品價二千四百八十六万三千九百五十六圓（前年同季に比し八百七十一萬七千五十四圓の增加）輸移出品價千六十七万二十四圓（前年同季に比し二百十三萬六千八百七十四圓の增加）に上り、輸移入超過實に千七十八万千百六十七圓の巨額に達せり。斯る貿易額の激增は半島に未曾有の事なるを以て、半島經濟界の前途を樂觀せる者官民を通じて頗る多きも、這は皮相の見解浮薄の觀察に止まるものとして、吾人之れに同する能はず、寧ろ吾人は此貿易現象を目して、半島の財力を滅耗し、延て半島經濟界を混亂の境に陷れんとする導火線とならざるやを憂へて已まざるなり。見よ貿易額激增と輸出入兩者間の比例を失すること甚だしく、之れが爲め輸移入超過額著しく增加せるにあらずや。而かも輸移入超過は乃ち半島在貨の流出を明示せるものにして、在貨の流出額多きだけ半島の財力減少しつゝあるものなるを思はば、吾人の憂慮決して無用ならず。凡て貿易の原則としては生產の發達を計り以て輸出入の均衡を保ち貨幣の流出を防ぐにあり。之に反して、半島の貿易が上述の如く巨額の輸移入超過を見るに至りしものは、要するに併合後恩賜金救恤金の下付、鐵道其他工事費の散布、半島政費の增加、內地資本家の放資等に因つて生ぜし通貨の膨脹より來れるものなりと斷ぜざるを得ず。然して通貨の膨脹は一概に輸移入超過の原因となるにあらず、其膨脹せる通貨が能く資本の形となつて止まり生產上有効の働きをなせば、貿易上輸出の增加を促して止まざるものあるに徵せば、通貨膨脹の利害は唯用途の如何によつて決せらるゝのみ。憾むらくは資本觀念の稀薄なる半島民の考慮茲に及ばず、折角得たる通貨を母國に逆流し復收拾すべからざるの苦境に沈まんとして尚晏如たるものあるは、豈半島統治上忽諸に附すべきものならんや。吾人が本年七月の本紙に「通貨の膨脹と移入超過」と題し二日間に亘りて論せしもの畢竟斯る經濟上の變態を打開するの急務なるを唱へ併せて官民の注意を此に拂はしめんとせしに外ならざる也。然るに吾人が此言論を公にせし後、漸く識者の注意を惹き、現に朝鮮銀行總裁市原氏の如き、昨日の本紙に掲載せしが如く、本社記者に對し『膨脹したる通貨は之を貯蓄するか或は生產資金の方に運轉すれば事業起り富源も開發さる可きも、土地賣た金で寢て暮されては困る、斯くして通貨を濫費せばこそ通貨膨脹の弊害恐るべし、此點は互に警醒すべき事なり』と語れり。其一擧手一投足が半島經濟界に至大の影響を與ふべき朝鮮銀行の當局者にして此言あり。吾人大に意を強ふせざるを得ざると共に、通貨濫出を防止するの方策を提議するの今日最も必要の事なるを信じ爰に一言せむとす。

通貨濫出防止の方策として、郵便銀行、貯金を奬勵するも或は可ならむも吾人は之を以て未だ完全の策なりと見る能はず。殊に低利なる貯金によつて滿足するものは多く中產以上の者にして中產以下の者が貯金思想に乏しきは之を母國の例に照らしても知る可し、況むや半島民に之を強ひむとするは其効果の良好ならざるやを想はしむるに於てをや。於是、吾人は農工銀行をして、割增付農工貯蓄債券を發行せしめ、之に依て通貨を活用するの普通的にして、且つ利益多きを唱へずんばあらず。半島に於て農工債券發行の必要なるは、吾人既に二年前に唱へしものにして、今茲に之を繰返すは、通貨濫出を制肘するの方策として是に越ゆるものなきを信せるが爲なり。特に割增の一事は半島民の趣好に適應し其効果の顯著なるや蓋し疑を容れざるなり。而かも農工銀行をして債券によつて收受せし通貨を生產的に流動せしめむか。半島民をして直接生產資金を運用せしむるよりも一層安全なるにあらずや。若それ債券發行上の細目に至つては當局者に於てそれぞれ考あるべし。吾人は唯此議の當局者に研究せられ且つ其實行を見るに到らむことを切望す。

東京電報

▲寺內總督歸期

寺內總督は來月三日東京出發歸任の途に就くべし

▲新市制實施期

來る十月一日より愈々新市制を實行し東京大阪、京都の大都市には市參與を置き電氣、瓦斯、水道等に關する責任者たらしむべし

▲日銀公定歩合引上げ

日本銀行は愈々各種割引歩合を凡て二厘引上げの旨二十六日發表し二十七日より實行す

▲伊土兩國の葛藤

伊太利はトリポクを占領せんとて土耳古との間に葛藤を生じ軍隊出動して事

▲佛艦爆發す

佛國巡洋艦リベルテはツーロンに於て爆發し乘組員五百名死亡したる旨海軍省に電報ありたり

▲關門車輛運航

馬關門司海峽の貨物車輛運航は準備成り愈々十月一日より開始す

▲民黨政務調査

國民黨政務調査局にては府縣會議員の撰擧も本月を以て一段落を告げ各地方に出張中なりし代議士及調査委員等も概ね上京するを以て來月上旬より毎週一回調査總會を開き中央地方の諸問題に付き調査し意見を決定する筈

▲總督府看守服制

二十七日の官報を以て朝鮮總督府看守服制に關する件公布されたり其內容は制服は看守服制に依り襟に竪五分橫五分五厘銀色略桐章を附す

▲海相の見舞電報

齋藤海軍大臣は佛國巡洋艦爆發椿事に關し佛國海軍大臣に見舞の電報を發したり

▲佛艦司令官謁見

佛國太平洋司令長官カストリー少將は部下の將校を從へ廿六日午前十時三十分參內謁見仰付られ正午霞關離宮に於て午餐を賜り東伏見宮殿下渡邊宮相齋藤海相等接伴せり

▲皇后陛下展覽會御成

皇后陛下には二十七日上野公園竹の臺に於て開催中の東京鑄金展覽會及同公園日本美術協會內に開會中の日本窯業協會主催の日本窯業共進會に成らせら

雜報

●學校官制發布

過日公布されたる朝鮮教育令實施に伴ふ各學校官制は既に樞密院を通過したるを以て今明日中學校職員特別任用令と共に公布さるべし

●安奉線工事進捗

安奉線鐵道工事を觀察して歸來せる某氏の談に曰く鴨綠江架橋工事は意外に進捗し一時同工事上の大蹉跌として延ゐて滿鮮連絡上に甚だしき遲延を來さしむべく憂慮されし橋梁工事も中央回轉式橋桁も一兩日中には架設工事を了るべく剩すところは唯目下舟楫の爲めに除きある安東縣岸に沿へる一部分にて是は來月中には竣成すべき見込なりとは同工事監督者の語るところなり又安奉線の最大難工事と稱されし鷄冠山隧道は延期々限たる來月十日迄には全部竣成は聊か六ケ敷からんも同中旬には完成すべく其他に於ては別段前途を氣遣ふ難工事もなければ遲くとも來月中には全部開通の見込確實なり尚本年は殊の外雨量多く再三是に惱されたるが昨今の陰雨にて繼續せんには又多少工事に遲延を來すべしと云ふ

●煙草專賣の實行

朝鮮總督府が歳入增加の目的を以て煙草の專賣を目論見之が調査の歩を進めつゝあることは事實なるが聞くところに因れば近來にては彼の英米タバコトラストの如きも競爭に疲れ相當の報償さへ得るに於ては營業權の放棄を辭せざる態度を示し居るを以て此際其筋に於ては專賣施行に關する調査の歩を夫々進め關稅据置期限內に於ても支障無く專賣制度を施行せんと目下夫々準備中の由なり

●ジョルダン博士

ジョルダン博士夫妻は廿八日午前八時聯絡船にて釜山着出迎への飯島囑託と共に同夜午後八時十分南大門驛着入京ソンタクホテルに投宿する由

●總監と平和博士

山縣政務總監は二十八日入京のジョルダン博士を官邸に招待し晩餐會を開く筈にて期日は博士入京の上決定すと

●荒井長官の豫算談

來年度の豫算に關し荒井度支部長官曰く編製は大體に於て終了したり寺內總督の歸任が若し來月上旬ならば當地に於て決裁を受け尚各部長官等の會議をも終り携行東上するは十月十五日頃ならん來年度歳入の增加は約三百万圓にして其主なるものは關稅八九十万通信局約六七十萬圓鐵道局約百萬圓等にて其他本年度と異なることなきも多少の新事業はなきに非ず沿岸航路補助の如きは（記者曰く新瀛船會社の補助金二十四萬圓の事とす）適當なる施設と思ふを以て之を豫算に計上したり又安奉線開通後の關稅問題につき答へし要領は同鐵道が愈開通せし曉は貨物の檢査其他の問題等成るべく旅客の便宜を計るの方法を講じつゝあり稅關の位置は新義州と安東縣の兩方にて別々に檢査をなすは不便なる故双方立會の上にて共同檢査をなすは利益ならん尚本件の交渉は外務省の處管なれば詳細の事情判明せずと云々

●朝鮮人の通信力

光化門郵便局の前身は元と韓國政府の郵遞總司、電報總司と稱して郵便電信の中央機關なりしを引繼ぎたるものなれば朝鮮人は今尚は京城郵便局は內地人の郵便局にして光化門郵便局は朝鮮人の郵便局なるが如く誤解を抱くもの多く從ひて其取扱ひの郵便、電信、爲替貯金の如きも朝鮮人八分內地人二分と云ふ比例なり尤も其位置が朝鮮商業の首腦地なりとは云へ全く以前の觀念を去らざることも一因なり斯る理由あるが爲め朝鮮人に於ける通信力の程度其信用の如何等を知るには最も便あり明治三十八年引繼き當時の通常郵便の如き誠に微々たるものにして其後爲替貯金小包郵便を取扱ふに至りても是れを利用するもの稀なりしも逐年其數を增し今日にては殆んど其七倍乃至十倍を數ふるに至れり由來朝鮮人は文筆の民にして相當の通信力を有する筈なるに其微々たりしは全く韓國政府施設の時代に於ける不信用が猶は去らざりしより其間猜疑心を以て利用するを欲せざりしにあり然るに漸く其信ずべきことを知ると同時に利益なるを解するに至り頓に利用者を見るに至れり就中小包郵便、郵便爲替の如き最も經濟的なるを深く感じ其數の著しき增加を來せり今後朝鮮人の通信力は益々發達增加し內地人を凌駕するは近きにあるべしと信ず左に通常郵便物の數を掲記して如何に其發達しつゝあるかを證す云々（播光化門郵便局長談）

明治卅八年八月	二一、八二七通
同 卅九年八月	五一、二一六通
同 四十年八月	八九、一六二通
同 四十一年八月	一〇五、〇六四通
同 四十二年八月	一二七、二二四通
同 四十三年八月	一四九、〇四四通
同 四十四年八月	一六八、三〇〇通

●宗教學校の現狀

朝鮮に於ける私立宗教學校は主として外國宣教師等の設立する處なるが最近の調査によれば六月一日以降に於て廢止したるもの四十八校新に認可されたるもの十校現在は六百九十七校ありと云ふ而して廢校中には組織變更したるものも含有せられをる由なり

●本町道路擴張案

本町及其他の道路擴張案は山口太兵衛氏より提出中の處二十五日の民團委員會に於て可決愈々來る二十九日の民會に附議する由

●京城民會開設

京城民團にては二十九日午後三時より道路改築に關する委員會の決議、其他二三件を審議すべしと云ふ

●米作第二回豫想

農商工部は過日第二回朝鮮米作收穫豫想を發表し尚第二回の調査に着手し來月早々發表の筈なるが其後二百十日及二百廿日の兩厄日も無事經過したるを以て第一回豫想と大差なく昨年に比し約百萬石の增收はたしかに見込違に非るべしと

●京城府部面豫算

京城府にては管內を五部八面に分ちあるが本年五月より來年三月迄十一ヶ月分の其經費豫算は東部二千四十八圓西部三千九百二十二圓南部三千五十七圓北部二千四百九十六圓中部二千九百二十二圓にして面は最低面七百四十七圓なりと而して此の豫算は既に道長官の承認を經て府尹より認可を得たりと

●各授產場修了式

京畿道各恩賜授產場にては本年五月養蠶及養鷄の受產者を七月及八月に於ては柞蠶（京城を除く）授產者を收容し各場とも四五十名を養成し來りしが今や豫定の傳習を了へたるを以て京城は九月卅日連川十月五日開城七日楊州十一日慶州十三日富平十四日江華十六日水原十九日陽智廿二日の割にて修了式を擧行すべく同日は道長官又は代理者臨場すべしと云ふ因みに京城府に於けるものは更に十月一日より製糸授產者三十五名を收容すべく其他の各場は來春三月に至り第二期授產者を收容する筈なりと云ふ

●朝鮮農會發展

本田博士の副會長たる朝鮮農會は併合後一般の發展を爲し目下各地樞要地に支會十五ヶ所を設置したるが會員は既に四千余名に達したりと尚年內に時機を見て大會を開催する計畫ありと

●朝鮮の獸疫數

朝鮮全道八月中に於ける獸疫數は八十二頭にして內慶尚北道最も多く忠淸南道は僅かに一頭なりといふ

●興信所支所の位置

東京興信所支所を京城に設置するの計畫あり昨今總督府へ認可申請中なることは既報の如くなるが認可の上は當分事務所を江川活版所內に設くべしとの事なり

●黄海道の水害

黄海道事務官田中遷氏黄海道水害の模樣を語つて曰く同道十九郡の中浸水したるは十一郡にして其最も甚しきは海州甕津松禾金川載寧信川安岳黄州の諸郡なり此等は長きは一週間乃至十日間洪水に襲はれ被害も爲に甚大にして收穫皆無の地方も尠なからず、居民は多く堤上にアンペラを敷き浸水の稻を搗き辛うじて其日を送る有樣にて實に酸鼻を極む行政上の救濟は目下考慮中なれども差し當て國有地の地主として其れぞれ手の及ぶ限り救助し猶有志家の義捐及地方費を以て一時の急を凌ぎ居れり、被害の統計は死者八十五名、流失家屋三百二十三戶、全潰半潰二千六百、浸水家屋七千三百戶、作物被害は百三萬圓位にて其大部分は米にて大豆も收穫を減じたれども之は寧ろ暑熱を要する季節に降雨ありたる爲充實せざるに基く如し今回の洪水は老農の說によれば十年目の炎厄なりと云ふ、猶幸なるは退水後疫病の發生を見ざる事にて之は鮮民の日常生活が至極下等なる爲に其災厄に遇ふも多く平常と異ならざるに因るならんか云々

●教會堂建設認可

日本組合基督教會朝鮮布教管理者渡瀨常吉氏より京城府中部磚洞に教會堂建設の件出願中の處十八日附を以て認可せられたり

●燕岐郡衙の移轉

忠淸南道燕岐郡衙の地位は從來燕岐郡府內面にありしを今回交通の便宜と內地人等住居の都合等により鳥致院に移轉する事となり廿七日より實施されたり

●佛司令官來京

北淸駐屯軍司令官ベルソン氏は朝鮮視察の爲め來廿九日朝新義州發の列車にて來京の旨其筋に電報ありたり因に隨員は幕僚等數名なりと

●宇佐美長官出發

宇佐美內務部長官は既報の如く二十七日午前九時南大門出發慶尚南北道忠淸北道の行政事務視察の爲め出張の途に上り小原地方局長澤田地方課長松本庶務課長以下部員一同見送り盛んなりき

●中村課長農事視察

農商工部農務課長中村彥氏は青木囑を隨へ二十日間の豫定を以て全羅南道慶尚南北道農事視察の爲め二十七日午前九時南大門發出張す

●月田課長來らず

農商務省耕地整理課長月田藤三郎氏は米國視察の歸途當地に立寄り耕地狀況視察の豫定なりしが都合により變更米國より直行歸朝せし旨農商工部に通牒ありたり

●古城民長の歸京期

歸省中なる古城民長は二十六日鄕里出發歸途に就きたるの報知ありたり

●岡田技師の歸任

度支部稅務課の岡田技師は大藏省に於ける技術官會議に臨席のため東上中なりしが二十六日歸任したり

●河合博士の歸東

東大農科教授河合林學博士は林業視察の爲め來京中の處二十七日午後十時南大門發歸東の筈

●郡書記の見習

二十六日講習を了へたる新任府郡書記中十三名は京畿道に赴任したるが各十三名の府郡書記は二十七日より向ふ五日間道廳に於て事務見習を爲しつゝあり

●馬糧の購買禁止

慶南金海郡犬上犬下面に炭疽病發生し初發以來倒牛四十三頭を出し病毒蔓延の虞あり殊に洛東江上流三浪津、密陽方面は馬糧の生產地なるを以て軍司令部に於ては該地馬糧の購辨を禁止せり

公人私人

▲鄕津友彌（平壤地方裁判所檢事正）二十六日天眞樓へ
▲赤松梅吉（釜山滊船會社支配人）二十六日山本旅館へ
▲野中藤作（警察醫師）二十六日不知火へ
▲阿部安積（藤田組技師）二十六日播尾旅館へ
▲宮家正義（警務課技師）二十六日開城行
▲宇佐美勝夫（內務部長官）二十七日午前南大門驛發南鮮視察の途に就く
▲中村彥（農務課技師課長）二十七日大邱行

仁川港出入船舶

▲木浦丸 二十八日大坂より入港
▲神代丸 同 同
▲湖州丸 同 横濱より入港
▲神代丸 同 大阪へ向出港
▲湖州丸 同 大連へ向出港

▲京城手形交換高▼

	金高	枚數
九月廿七日	一四八、六四八、〇九〇	六七三

▲治外法權▼

目下我國からは島田新渡戶の兩人が渡米し、熾んに日米親善の講演に勉めて居る、折も折り其交換とも見るべきか、米國よりは例の平和博士ジョルダンが我國に渡來し平和主義宣傳の爲に其雄辯を振るつて居る▲日米の親善、日米の平和、是れ何人も期するところ、華盛頓に大使たりし內田を霞關の主人としたのも實は如上の所期を成就さする爲だ▲平和博士ジョルダンが大阪の高商で、一場の講演をする筈であつたのを、大阪府廳のワカラズ屋が危險思想普及の恐れがあるとか云つて中止したソウだ、サテ平和演說に危險思想呼はりは面妖な話、ソコで博士は大阪より京都に轉じ同志社大學に於て例の雄辯を振つた▲博士曰く、目今世界に豪富を極めつつあるものはロスチャイルド、モルガン、カーネギー等十六名あり、昔は佛蘭西の漫畫に哀れなる百姓を描き其上に六名の坐せるものありしが、今は百姓の上に兵隊を描き、又其上に十六の富豪を乘せざるべからず、而して此富豪の重量即ち全世界の國債總額は五百二十億弗に及べり故にモロッコ事件の如きものあるも歐羅巴諸國は唯武裝するのみにて戰ふこと能はざるなりと▲果然博士の軍備及富豪攻擊こそ大阪府廳から、危險思想と目されたる所以であつた开は兎に角として減債基金問題で桂內閣が投出したのも、我六千萬の同胞が日一日と生活上の困難を增すのもツマリは五百二十億の國債を左右する彼等富豪の所爲だ▲伊藤組の主人曰く、ゴム輪もモー古メカシ、馬車も何どやら、一層の事自働車の帳場を作りましようと、シカシ現在の道ではドーもナァ▲李王職の蜷川がボーナア讓りの自働車で時々朝鮮町を駛る、而して其早きこと鉋サンの如し▲三井の淺野近く三輪自働車を手に入れ蜷川と競爭せんとすとの說あり思ふに其期に到つて生命保險會社より抗議出でざれば幸甚。

ヨボ偶感　矢崎生

◎仁川に來て日も淺いので格別新しい感想もないが然しまづ目に附いた物の一つは何處に行つてもヨボが呑氣さうにゴロゴロして居ることであつた朝早く道を歩くとそこの四辻にもこゝの三つ角にも今日の運命を占ひ顔に長煙管でスパスパと臭い煙を輪に吹きながらただずんで居るのを見受けた、そして十時頃迄つても相變らず多く目につく耳を聾する午砲に驚いて家門に走る途すがらも猶爲す事もなき彼等は怪しげな將棋盤などを持出して無聊を慰して居るのを見た、日盛りの二時三時頃になるとアカシヤの葉影に袖ひぢてチゲ君は桃源の夢高だ閑らかであるそうして愉快なる一日の勤勞を終りたる、吾等が仁川沖の青海原に金波銀波を漂しつゝ悠々と沈み行く日の影を浴びながら稚子門に待つ樂しさを想ひ浮べて家路を辿る其の邊にて終日空しく街に立ち盡したる彼等を見出して驚かされた事も必しも稀ではなかつた

◎自分はいつも此の太平の逸民を見るにバイブルの内にある人生を葡萄園と其の勞働者とに譬へた興趣不盡の物語を思ひ起さずしては居られない、うして葡萄園主が日暮るる迄茫然と街に立てる勞働者を誡めて神國の活動に入れと教へたるに鑑みいま目の當りに横つてる太平の逸民も舊國の生涯を解して人生の眞意義に觸れさせ度候韓國が兎にも角にも上下三千載の國史を有しながら今日の國運に到着するの已むなきに立ち至つたのは年と共に馴致せられたる此の怠惰なる國民性に負ふ處多いと思ふ嘆ずべき極である

◎然し翻つて思ふに空しく街に立ち暮して可惜有爲の一生を醉生夢死に終らしむる者は強ちに蒙昧なるヨボ而已ではあるまいと思ふ、乃ち我々が軍人となり政治家となりて君國の爲めに報ひ又は陶朱猗頓の富を重ねて其の食前は方丈なり其の着るものは錦繡綾羅なり其の出入には天馬空を驅り自働車の待つあるとも若し顧みて内に皓潔雪の如き信念が缺きて節義の重んずべきを知らず高尚なる生存の妙味も之を味ふの念なく唯だ名譽を慕ひ金錢に憧れ肉体の欲を行ふにのみ存らならば畢竟之れ一「空しく街に立てる者」にして心靈上のヨボたるを免れざるべし

◎嘗て雜誌「日本及び日本人」が好きな古英雄を募た時に豊太閤は其の第一等であつたと曰ふ、僅かに秀吉は不出世の大材である文祿三年夏八月明ハ沈維敬の爲めに、マンマ一杯喰はされたる彼は烈火の如く憤つて「日本は我掌中にあり、王たらんと欲せば王。帝たらんと欲せば帝。何ぞ外奴の封を待たん耶」と絶叫して芳醇比なき國民性を遺憾なく發露せしめた。邊り日東男兒の爲め氣を吐く萬丈なるものがある然も其の飽く迄も桃山式に豪華なる一生の幕を閉ぢんとするに際しては晩節の甚だ振はざるを憾まざるを得ない、彼や外には征戰利あらず、十萬の鋭卒は枕を並べて異域の鬼たらんとし内には以て六尺の孤を托すべし以て百里の命を寄すべきもののなきに煩悶懊惱し或は佛の崇りを恐れて一旦大佛殿に安置せる如來の像を善光寺に返還し或は夢に信長の靈に襲はれて轉々反側し辛じて「露と起き露と消ぬる我身哉浪花の事は夢の世の中」の一句に英雄の盡きぬ恨を留めて居る、一念不動の信なき彼の生涯も要するに心靈的ヨボたるに相違ない

◎願ふに仁川は未來に於ける世界的互市場である、之が生命たる築港の完成と京元横貫線との竣工は日に日に其の運命を近づけつゝある、仁川市民の大飛躍は今にある、切に努力奮勵を望む然し世界的開港場の成否は窮極する處設備ではなくて人格である仁川市民の崇高偉大なる世界的情操である、心靈的ヨボの群集は百萬の大を爲すとも決して仁川を不朽に大ならしむる所以ではない（をわり）



新町口入屋の卅分 別庄(一)

白面子

新町廓內には口入屋が二軒ある、一軒は即ち丸屋で一軒は即ちの別庄である別庄は藝娼妓を取扱ふに付ては京城で第一の男である相な、既に僕が丸屋に材料を漁つた事は彼の某妓に知られた、天知る地知る我知る子知るだスッポリ冠つた猫の皮何時何處でヒンメクラレヌとも限らぬ要心に勝くものなし不意に襲ふて一擧に敵壘を陷るべしと某妓に別れた足を其方に向ける、家が不明ので派出所の警官に伺う、と「君は何者かい」と來た、我れ生れて茲に二十有余歲未だ曾つて道を訊ねて住所職業氏名の尋問に逢つた事はない、然るにだ、然るに茲に此の尋問に會ふ、念ふに放浪多年の僕の顏色油斷のならない者と見ねる迄に荒んだのであらふ、憮然として名刺を懷中に探つて恭しく提出すると安心したらしく、警官は叮嚀に「清月の横第一樓の前です」と敎へられる、標して別庄寅之助とある、此の家は普通口入屋の如く看板や提灯なぞを揭げない一見一寸素人家の如か併し夫れは名が賣れたるが爲であつて實は豈計らん此の家內にて多くの悲喜劇の材料を取扱はれて居るのだ、戶內に入ると六十七八の老婆さんが裁縫をして居る「御主人は」と訊くと「周旋用で他出して居りますが周旋上の事なら聞いて置きましよう」と云ふ「婆ア欺せば七代祟る」と云ふではないか七代祟られては僕は困ぬが子供や孫が可哀相だ「女將さんが在なれば」と崇り恐ろしさに逃げる、れ婆さんは其樣事とは知るまいが「エヽ居ります呼びましよう……れかつやれかつや」と呼ぶ聲に應じて出て來たのが即ちれかつさんな女將だ、一通り挨拶は濟む「景氣は如何ですか」と對話の口を切る「手前は手堅く扱ひますので何時も相變らず皆樣の御贔負を頂て居ります」が……處で何か御用で」と本文に入る「實は女を一人何處かへ周旋して戴きたいんで……」と言ると寅之助君の內緣の妻たる長谷川かつ君ハヂケル如な笑顏で「マーれ上り下さい……時に遊廓にですか下女、ですか」と云ふた「何處でも差支へないんですが」無責任な事を平氣で云ふ「書類は何れ位ゐ入りですか」と何處でも同じで此の中から訊く「夫れがです……」と一寸困つて試ると女將は早速引取つて「イエ田舎でしたら書類何にも不要ません、併し金は何程許り御入用ですか」と短兵急に攻め込んで來る、斯う來りや神奈川の久兵衞さんだ、モウ此方のものである、が何んと云つたが都合が好からうか兎に角此所迄運べは急ぐにや當らぬマア一吹して與れべねと朝日の一本に火を點けた(つゞく)

嗚呼、堀力太郎

▽亡父の面に泥を塗る

▲直臧の出訴 族長力太郎が獨斷專行族會議の所謂決議錄の承認を憤慨して親族會議を峻拒したる力太郎の實弟直臧は兄弟の誼を守り其後種々人情を以て實兄に向つて之れが條理ある解決を告んことを迫りたるも物質上の利害の前には父母兄弟たりとも讓らざる力太郎は馬耳東風と聞き流して至當なる直臧が要求をだに容るゝ景色なきに遂に堪忍袋の緒を切りたる直臧は兄弟墻に鬩ぐの醜陋を忍びて力太郎に對し遺產分配請求の訴訟を提起したるは曩に明治四十三年三月二十四日の事なりしが右審理の結果は直臧の情理ともに整然たる主張成立し其勝訴をならんとするを見るや遽かに狼狽して

▲相當遺產の分與を爲して和解解決を遂げたる事あり右は後の事に屬すれども筆の序、事の順序として揭記したるものなるが之れに徵するも如何に力太郎が我利の前には骨肉の親と雖も容赦せざるものなるかを窺ふに足るべし、此れより前明治三十九年十月三十一日力太郎の實妹にして佐藤敬雄の愛妻亡久太郎の三女ちとは不幸にして最愛の良人及當時四歲の久雄の上に多くの心ひと他かぬ名殘を此世に止めて死亡したる然るに

▲無情なる力太郎は妻を失ひ母を失ひたる敬雄久雄の父子が悲嘆の涙更らに新たなる十一月の十五日實妹ちとが佐藤家に嫁ぎたる時持參したる冬夏物紋付衣類二十五點茲に襟小道具入、帶及着物三十二點(內帶地未仕立品四點)他に着物二十五點、純金指環十個、同上根掛一個、榴瑠璃珠其他髮飾具入取合六箱、金時計女持一個、此見積金額二千圓(返還請求物件の一部)の物品を容れたる支那鞄三個を持去りたりと云ふ讀者は此の記事を果して事實なりとするか斯くの如き無情酷薄强盜の如き所爲を兎に角今は紳士と立てらるゝ堀力太郎が決行したりと信せらるゝか、普通人間の血に活ける記者は之れに深き疑を置かざるを得ざるも加かも遂に實なりと傳へらるゝを如何せん、而して彼れ力太郎の手は曾て

▲敬雄が建築したる日本居留地第四號中に存在する茅葺平家一棟(此建坪十坪見積價格六百圓位、返還請求物件の一部)に延び保管監理に名を藉り明治四十年一月以降橫領し其賃貸金を不當利得せり(此見積金自四十年一月至四十四年六月計金五百四十圓也、返還請求物件の一部)夫れのみならず更に力太郎の飽くなき慾に飢く野獸の如き眼は佐藤一家の上に注がれたり(續く)



壽座に出演する藤野秀夫

雛鶴大に引掻んとす

▽大切の男を橫取れて

仁川敷島遊廓吾妻樓の雛鶴と云ふは實母が面壁の達磨さんの掛軸を丸呑みにしたと夢みて孕んだと云ふ妓だけあつて頗るの辛棒人で敷島に七年以上も稼いで居る左れば廓內切ての古狐なれば「コン〳〵仲間では擔軍夫が材木を背負たと滿樣巾の利くこと夥だしい相だうちで御座る相だそうで御座るから馴染客も數え切れない程ある內に三年程前から惚れ互に熱くなつてれ前でなければ夜も明けなけりや日も暮れねねと云ふ深間の京町二丁目の米商の川久保某月々十幾回も通つて盆暮には必ず三十圓宛の小遣迄仕送らうてれのが今年の盆前から一向顏を見せず何遍手紙を出しても返事のへもかかせぬ始末に男は何うでも宜いとして盆暮の三十圓宛に每月の玉代を取外すのが殘念とあつて雛鶴は物見を遣つて川久保の擧動偵察中不圖朝日樓の裏口より忍んだ男の後姿が川久保に似て居たみにぞ探りを入れて見しに右は川久保に相違なく敵妓は年子と迄判つて見ると口惜しさも一層で川久保さんは兎に角年子の阿魔奴其儘に置かうか出逢つた處が百年目だぞと爪を延ばして置いて二十四日の檢食場で出會ふと直ぐに躍り蒐つて年子の黑髮引つ掴み甲州流の極意を以て大に引つ掻んとしたる處へ飛び込んだのが吾妻の五郎マア〳〵待つたと引き退けて其場は無事に納まつたが納まらぬは雛鶴の胸の中長い月日の內には乾度怨みは返して遣ると辛棒强いことを云つて居るとは流石達磨の申し子なりけり

兇器携帶の女賊

▽六〇六號の質屋を襲ふ

仁川京町四丁目質商鷺茂作(三三)は大外れた好色男にて女房一人丈けでは迚も我慢が出來ず去りさて靑樓遊びは金が費るハテナと首を捻つて案じ出した一策鮮人蝎甫を大枚二十圓投げ出して落籍し自宅に引入れ女房のれさしにも能く因果を含めて神妙にさせて居たので家內は至て平穩無事で有たが茂作は又もや花街洞邊の蝎甫に浮身を窶したまでは何の事もなかりしが豬喰た報は覿面六〇六號の一段となつたが仁川邊の開業醫士では到底覺束ないとあつて數日前より福岡大學に入院の爲め妻と妾に留守を托して出立したり越へて廿五日夜妻妾二人は例の如く奧の一室に枕を並べて眠りたる眞夜中妾れとめは枕邊にある鏡臺の抽斗のガタ〳〵する物音に目を覺まし見ればコハソモ如何に三十恰好の出刃庖丁片手に日本婦人が襷掛けにて已に金品を窃取し居たるが妾れとめの目覺めたるを見たる賊は直ちに質藏の方へ姿を晦ましたるよりれとめは本妻を呼起し家中を檢めたる處鏡臺の抽斗の銀細工物代金三十圓余を窃取されたるより大騷となり近所の者など驅付け所々を檢べたるに床下に一尺四方斗りの穴を掘り夫れより忍入りたるものと判明せしが犯人は未だ縛に就かずと

貸金の抵當に女房

▽高利貸の不法監禁

高利貸が不法監禁罪として檢擧された一件あり被害者は南部小公洞六十三統十一戶白昌五(二八)の妻李召史(二四)にして白昌五は加害者なる愛知縣人當時京城相生町三十二番戶土地賣買兼金貸業黑田哲三(二九)より本年七月下旬八月上旬前後二回に金三十圓宛都合六十圓天引の五步利付にて借り受け九月二十六日を返濟期となし返濟方法として每日金六十錢宛支拂ふ可き約束なりしに金七圓餘支拂ひしのみにて返濟怠りしとて二十六日午前七時頃黑田は通譯をして白昌五夫婦を自宅に連れ來らせ二通の書面を示し更らに金を貸與す可しとて捺印せしめて後ち白昌五に向ひ此の書面は前に貸與しある元利金七十圓を二十六日正午十二時迄支拂ざるときは妻李召史を留置す可き承諾書なれば早く歸りて調金す可しと言れ白昌五は吃驚して調金に着手せしも正午迄に出來ざるより其の旨黑田に告げ延期を求めたるも應せずして李召史を一室に閉ぢ込め監禁しつゝある事を南部署に探知され目下取調中

訴訟を種に詐欺

中部寬仁坊寺洞七統八戶兩班李愿翼(四二)は他人の訴訟事件を聞き出しては掛り判事に賄賂を贈りて勝訴を取計ふ可しと稱して北部孟峴居住李石應外二名より金八百餘圓を詐欺したる事警務總監部永山刑事の探知する處となり逮捕され目下檢事局に送られ取調中

電車事故二件

北部八阪洞八統九戶姜致文(三六)は二十七日午前六時四十分頃南大門通り三丁目に於て踏路方面に向け左右軌道中間を步行中電車救助網に突飛され頭部腰部及左足に負傷し又英國人アブドン(四十)は南大門通り二丁目に於て新龍山行き電車に飛乘らんとして電柱に觸れ右肩上に輕傷したり

判決二件

既報大原米太郎の傷害事件は懲役四月に加藤廣吉の窃盜事件は懲役二月に處せらる

演藝だより

▲壽座 好人氣の裡に二十七日初日開演したる後藤良助等一行二十八日の狂言は初日と同じく一番目は報知新聞所載の敎育小說「黃菊白菊」にして筋は極めて平凡ながら平凡ならぬ敎訓を含める淸新の劇なれば靑年少女に惡印象を與ふる憂なきのみならず波瀾重疊場面の變化に富めば見て面白き事も請合なり二番目は喜劇「むすぶ草」にして役割は左の如し



壽座に出演する中島北子

新聞記者[illegible]藝妓駒龍(松下)正克母[illegible](藤田)庄三郎女房れ近(雪岡)富田久兵衞(深津)きく江(島田北子)梶野庄三郎(內田)金森正克(後藤)

▲浪花館 吉川今勝一行二十八日の讀物は左の如し 水戶黃門記(勝丸)義士傳(孤舟)慶安太平記(樂圓)水戶仁政錄(光廣)根のピストル、紀尾井阪爆烈彈(今勝)

▲龍山座 木村猛夫一行廿八日の出し物は「不如歸」五幕にして重なる役割左の如し 浪子(君子)千々岩安彥(稻葉)加藤夫人淸子(藤爲)山木兵藏(富士井)乳母いく(福澤)片岡毅(寺田)後室慶子(鈴木)川島武夫(木村)

▲歌舞伎座 エムパテーの活動寫眞雨天にても午後六時開演にて有り觸れたるものゝ比に非ず

料理店組合發會式

從來京城に於ける第一種料理店組合は曩に桃山新町等に集中せられ若しは廢業したる小料理店をも包容したるものなるが彼の一所集中斷行以來純然たる料理業者のみの組合となりしより規則を改正し取締に井門樓主を副取締に鍋道樂主人を推薦し其筋の認可を得て組合組織成立したるより二十六日午後三時より晉六庵に於て其發會式を擧げたるが京日及本社記者を招待せり勞頭今村南部署長の訓示演說あり終つて藝妓の手踊、福引等あり極めて盛會なりき



▲二十二日午後八時半頃西小門通りを何事にか驚き逸したる驢馬一頭疾風の如く走り來る跡より鮮人三三十人「タンナグ、チョキタラナッソ」と喚き立てゝ追ひ蒐けて來る▲面食つた驢馬クンも何と思つてか本社橫小路に入らんとすると夫れと見た通行中の一人大手を擴げて行らずと立ち塞つたので一直線に西小門を目蒐けて突進する▲夫れッと十人斗りは又候行手に立ち塞る▲コレではならぬと思案を換ねた驢馬クン駒の頭を立て直して太平町一丁目を南大門通りに出て電車道を橫切つて南山方面の闇に姿を晦つた▲跡見送つた誰やらが曰く「小さくても流石は馬だよ」と▲通行人に怪我が無くて先づは仕合せ(小僧)▲市內電車々掌の不親切に付き電車會社の電車課長を訪問し嚴重に御掛合を願たしと忠告しましたが不得要領な返事には困りました(忠告生)▲千家流れ望の方よ私知人の本町五丁目三浦時計業御內室は過日千家々元より奧傳授與相成りたることなれば此方なれば確かなり近日茶室、庭廻りも新築相成由に候(報告生)▲若草町に住む○○○○院の書記伊藤猖也と云ふ人は一昨年の秋から家族が同棲してると僞つて宿宅料を詐取して居る(無名氏)▲果して事實か、併し仔細に調べたら此樣のは幾何でもある、嗚呼公盜(係)▲米倉町西洋雜貨商藤本氏宅の少し上に參り候處豈に計らんや某出張所の板看板の揭げある家に夜更けてハイカラ幽靈の出沒せるを屢々實見す幽靈の出處が南山町まで確めたり子を持つ親の注意肝要(實見生)▲先月二十一日京義鐵道で鷺梁津水道局用の石炭購買に付見本檢査官と長谷川町の商人と結托して談合入札をして儲を分配したと云々の投書は精探の要あり預る(係)

廣告